

2012（平成 24）年度

グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実

参加型臨床実習のための系統的教育の構築

事業期間：平成 24～28 年度

事業の概要・特徴

参加型臨床実習では、指導医の下で学生が主体的に診療に従事することが学習課題となる。この学習を行うためには、臨床という「職場」で学生が自らの能力を見極め、学習課題を設定し、それを学びとる能力を持っていなければならない。本取組ではカリキュラム全体を見直し、①低学年（1 年次から 3 年次）からの学外実習施設の患者接触プログラム（6 週間）で「職場の中で学ぶ」力を養成し、②4 年次の全科見学型臨床実習（28 週間）とキャンパスでの集合教育との組み合わせで診療の現場で求められる知識・技能・態度を「文脈の中での学習」として行い、そして③5 年次からの 4 週間 1 診療科の参加型臨床実習（40 週間）のなかで実際の診療に従事する「チーム医療への参画」を通して臨床能力を養う系統的なカリキュラムを構築する。カリキュラム完成時には 74 週の臨床実習を実施することとなる。また、参加型臨床実習での学習の場を分院、地域の教育病院にも広げる。

本事業による平成 27 年度からの新カリキュラム概要図

